

ちばだい

プレス

千葉大学広報誌



特集

若手研究者の 活動にせまる

— 特色ある研究活動の成果から —

千葉大学OBOGインタビュー

東京大学教授 藤田 誠さん

WHO 東南アジア地域事務所 神田 美希子さん

45
vol.
2018 OCTOBER



質感の知覚メカニズム調査のための照明スタジオ



質感の画像処理と再現。一般の画像(上)と質感を保持した画像(下)

どのような研究を行っていますか
画像技術の発展によって、よりリアルで臨場感あふれるデジタル画像が日常生活に浸透しつつあります。しかしながら、私たちの研究により、最新のイメージング技術をもってしても、物体が持つ質感・光沢感や透明感、高級感などを余すことなく画像で再現することが困難であることが明らかになってきました。では、実物と同等の質感を与える画像を再現することは不可能なのでしょうか？私たちがこの重要な課題を解決するために、どのように画像計測・処理・再現を行えば、実物が有する豊かな質感をそのまま伝えることができるのかを研究しています。

「物を創る」時代に向けて質感をとらえる技術と科学を追い求める



国際教養学部 田中 緑 (たなか・みどり) 助教

千葉大学工学部情報画像工学科卒業、千葉大学大学院融合科学研究科博士前期課程修了後、ソニー株式会社を経て、2016年千葉大学大学院融合科学研究科で博士後期課程修了。現在は国際教養学部と大学院融合理工学府 イメージング科学コースを兼担している。

今後取り組みたいことは何ですか

近い将来、現在の「物を買う」時代から、3Dプリンタによって自宅ですべて「物を創る」時代が訪れると言われています。そのためには、物体が有する形状や質感などの情報を正確に扱うことのできるイメージング技術の発展が必要不可欠です。今後は、現在取り組んでいる工学、心理物理学、脳科学のみならず、生理学や材料学などの他分野と融合してさらに学際的なイメージング研究に取り組む、より豊かな社会の実現に貢献していきたいと考えています。

学生や受験生に向けてのメッセージをお願いします

私自身も、かつてはこのキャンパスで学んだ千葉大生でした。総合大学である千葉大学における学びの中では、異分野の授業はもちろんのこと、他学部の先生や友人を通じて異なる学問領域に接する機会が多く、多角的に物事を捉えることができました。自分の研究に関しても、それらの中から多くのヒントを受けて、さまざまなアイデアが生まれました。「なぜ？」という好奇心の種に対して、千葉大学にはさまざまな種類の肥料が用意されています。ぜひその種にたくさん水と肥料を与えて、大輪の花を咲かせてください。



さまざまな「質感」と質感研究の全体像。画像処理や再現だけでなく知覚・生成・計測・管理をトータルで行う

若手研究者の活動にせまる

— 特色ある研究活動の成果から —

千葉大学には何名の教員が在籍しているか知っていますか？その数は1300人以上にのぼります。総合大学である千葉大学は、それぞれの研究分野も多種多様。本特集では、その中でも若手の研究者に注目し、今どのような研究が行われているのか、その一端を紹介いたします。

地層と化石に記録された地球の姿をひも解く

教育学部 泉 賢太郎 (いずみ・けんたろう) 特任助教

東京大学理学部地球惑星環境学専攻、2015年東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程修了。国立環境研究所を経て、2017年より現職。千葉大学に着任してからは、教育学部の地学担当の教員として、専門分野だけでなく、広く地球科学全体への理解、教育、アウトリーチ活動に努めている。



海洋生物調査中の一コマ。生痕化石から得られるデータを適切に解釈するためには、今生きている生物の知見が欠かせない



野外での地質調査風景。研究対象によって、山道を歩きながら調査をしたり、観光客が多く訪れる海岸沿いで黙々と作業をすることも

どのような研究を行っていますか

地球環境の変遷と生命進化パターンをさまざまな時間スケールで解明することを目指し、地層と化石に関する研究を行っています。地層は地球環境の変遷を、化石は生命進化パターンを、それぞれ記録しています。特に地層の研究では、過去の地球温暖化時に形成された地層を重点的に研究しています。また、化石の研究では、古生物の行動生態とその進化を探るために、生痕化石と呼ばれる化石(古生物の行動の痕跡が地層中に保存されたもの)を専門的に研究してい

今後取り組みたいことは何ですか

個別の地層や化石を研究することでわかることはあるのですが、より普遍的な知見を得るために、今後はより多くの地層や化石の研究に取り組んでいきたいと考えています。また、生痕化石の研究をさらに深めていくためには、今生きている生物の研究が必須になります。生痕化石は過去の生物そのものではなく、あくまで「行動の痕跡」の化石です。そのため生痕化石を形成した生物を特定できないことも

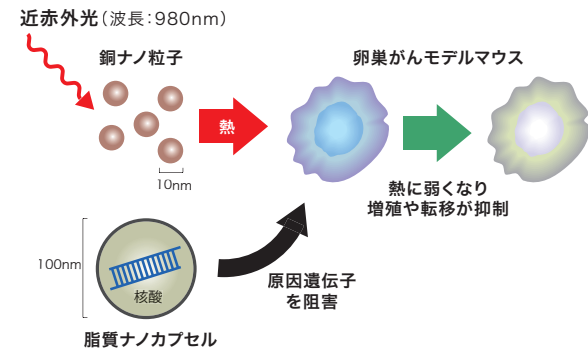
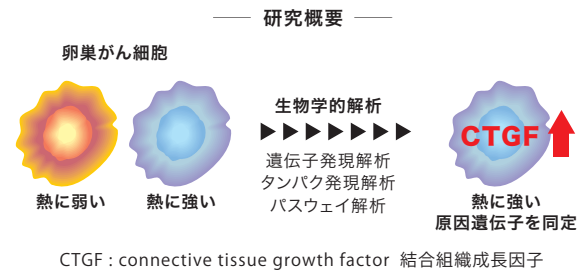
学生や受験生に向けてのメッセージをお願いします

大学では多様なことを学べます。しかしその多様性がゆえに、上手く目的を見据えなければ、何となく日々の生活をこなしていくうちに、時間がすぐに過ぎてしまいます。反対に、自分の興味を明確化できれば、有意義な大学生活を送ることが出来ます。太古の地球の姿、これまで地球上で繁栄してきた多様な生命、そして過去を知ることで見えてくる地球と生命の将来。このようなことに興味のある学生や受験生の皆さん、ぜひ一緒に研究に取り組んでいきませんか？

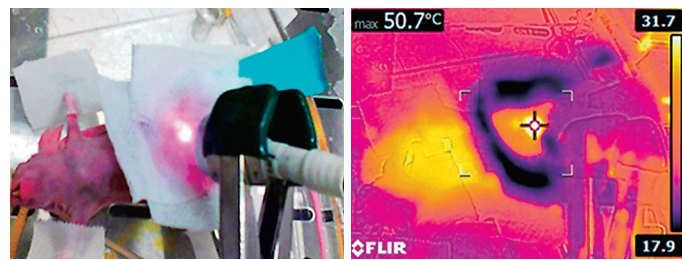
得られた地層や化石のサンプルは、顕微鏡で詳しく観察するため岩石薄片に。一番手前は、脊椎動物の糞化石を含む泥岩の薄片



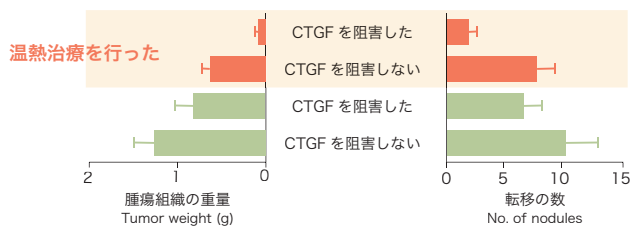
がんで苦しむ人を救うため成果を積み重ね治療薬開発へ



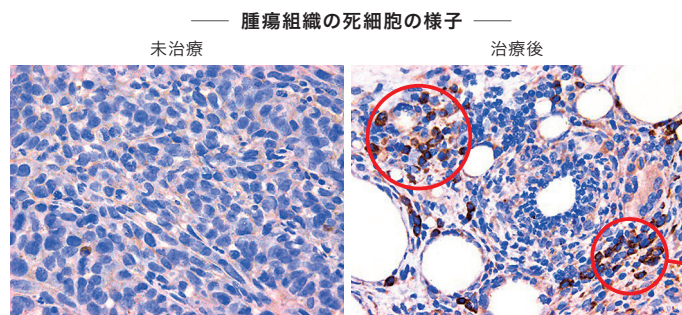
温熱感受性の異なる卵巣がん細胞を解析し熱に強い原因となる遺伝子 CTGF を同定。核酸分子をつかい CTGF の働きを阻害したうえで温熱治療を行ったところ、卵巣がんの増殖や転移を治療することに成功した



温熱治療中の図。腹腔内の卵巣がんを近赤外レーザーを照射すると、銅ナノ粒子がレーザーを吸収して発熱、腫瘍の温度は50～55℃まで上昇する



CTGFを阻害し温熱治療を行うと、腫瘍増殖が大幅に低下し、転移の数も大きく減少した



温熱治療前後の腫瘍組織の様子。茶色く写ったものはアポトーシス（自然と死滅した）細胞。治療により多くのがん細胞が死滅することがわかる



大学院薬学研究院
畠山 浩人 (はたけやま・ひろと) 助教
2008年に北海道大学大学院薬学研究科博士課程を修了し、博士(薬学)の学位を取得。北海道大学大学院薬学研究院助教および特任助教、テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター博士研究員、日本学術振興会海外特別研究員などを経て、2016年1月より現職。

どのような研究を行っていますか
がん細胞は熱に弱いと言われ、がん温熱療法の研究が進んでいます。しかし、どんながん細胞でも本当に熱に弱いのか、よくわかっていませんでした。卵巣がん細胞の中で、熱に強い細胞や弱い細胞がいることを世界で初めて見つけ、熱に強い原因となる遺伝子を発見しました。この遺伝子を阻害すると、熱に強い細胞が温熱治療で死滅しやすくなり、がんの増殖や転移の抑制に成功しました。

今後取り組みたいことは何ですか
千葉大学に着任してから、免疫チェック

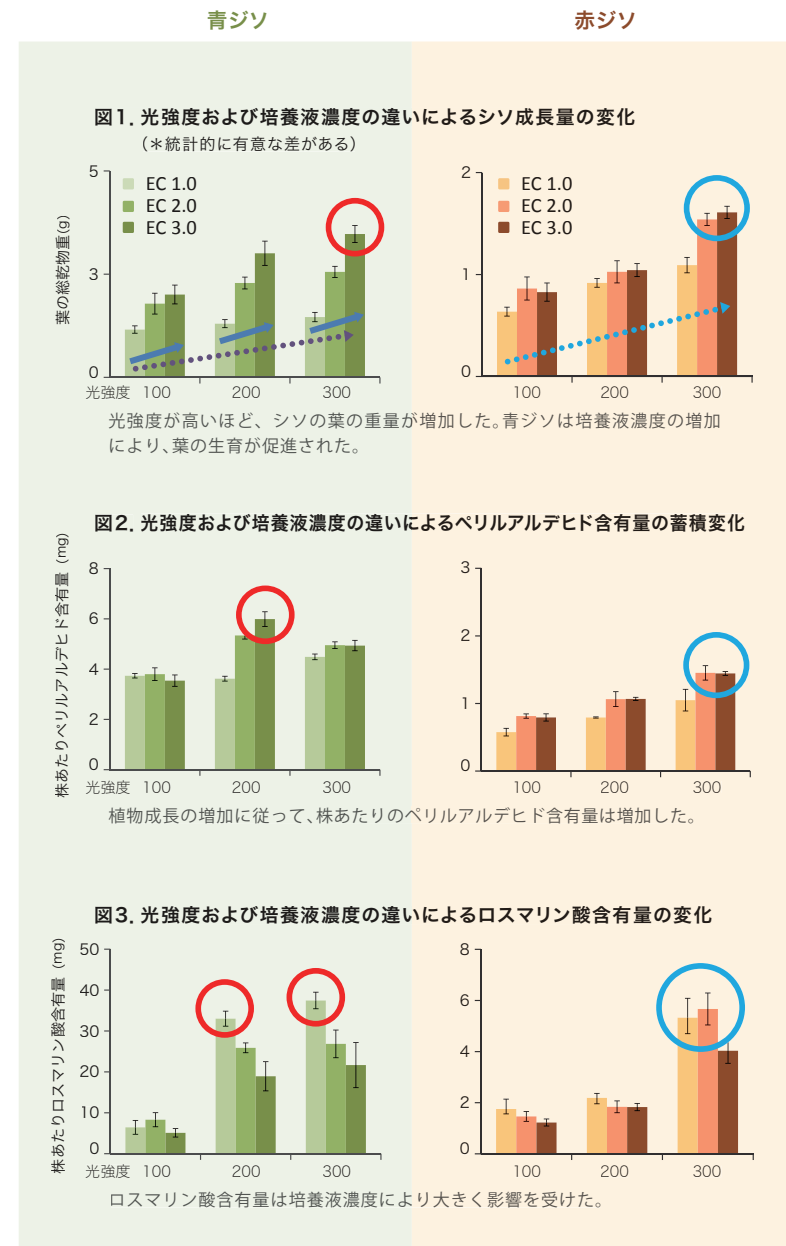
クポイント阻害剤という新しい治療薬の研究を進めています。免疫治療は従来の抗がん剤では治療が難しい患者さんにも優れた効果を発揮し期待されていますが、免疫治療の効果が確認できない患者さんは30%程度と、誰にでも効果が認められるわけではないのが現状です。これは免疫状態が患者さんごとに大きく異なるためと考えられています。温熱治療で治療に有利な免疫状態に変化させることが可能との報告があります。そこで、今後は免疫チェックポイント阻害剤にこれまでの温熱治療の研究成果を組み合わせ新しいがん治療法の開発に取り組みたいと考えています。

学生や受験生に向けてのメッセージをお願いします
がんで苦しむ人を救いたい。これが研究を志したきっかけです。日々の研究は地味ですし、うまくいかないことのほうが多いですが、今の積み重ねの上にそんな日が来ると信じて研究をしています。皆さんも将来の大きな可能性を信じて、今を大切にしてください。さまざまなことに挑戦して学んでほしいと思います。



環境健康フィールド科学センター
魯 娜 (る・な) 特任助教
中国農業大学農業生物環境与能源工学で修士課程修了後、2012年千葉大学大学院園芸学研究科博士後期課程修了。Philipsプラントスペシャリスト(アジア担当)を経て、2014年に千葉大学環境健康フィールド科学センター特任助教に着任。

植物工場で実現する 高品質な薬用植物の安定生産



どのような研究を行っていますか
さまざまな環境要因を制御できる植物工場を利用した研究を行っています。例えば、植物工場内でシソの栽培実験を行うことにより、光強度と培養液濃度がシソの生育および成分含有量に及ぼす効果を明らかにしました。シソには、解熱や鎮静などの薬用効用があり、その精油成分であるペリラルデヒドには、抗鬱および抗アレルギー作用等があります。また、抗アルツハイマー病効果をもつロスマリン酸も含まれています。しかし、これらの成分含有量は、栽培場所や収穫時期によって変化し、人工

栽培は困難でした。そのため、現在多くは輸入に依存しており、国内生産が重要な課題になっています。本研究では、①光強度と培養液濃度の制御により、シソの成長率を高めつつ薬用成分の含有率を維持できること(図1)、②養分不足・高光強度下において、食用青ジソと薬用赤ジソのロスマリン酸量が顕著に増加すること(図2・3)を発見しました。植物工場では、作物にとって最適な栽培環境を自由に制御することができ、そのために、植物成長と環境因子の関係を理解することで、高い生産性と高付加価値のある作物を安定的に国内生産

学生や受験生に向けてのメッセージをお願いします
新しいことを明らかにする点に研究の面白さを感じます。いかに高いモチベーションを維持していくかが、研究をやり抜く中で重要となると思います。天然由来の植物成分は、食品・医薬品・化粧品等で需要が高いため、植物工場を用い、高品質な機能性ハーブや薬用植物の栽培生産技術を開発したいと考えています。

本特集で紹介した4つの研究は、千葉大学公式HP【特色ある研究活動の成果】にて詳細をご覧いただけます。【特色ある研究活動の成果】では今回掲載した研究に限らず、また若手研究者にとどまらず、さまざまな分野の研究活動を年2回更新で紹介しています。ぜひこちらも合わせてチェックしてみてください!

CHECK!
▶▶▶



ホームページでも研究活動を紹介します!

オリジナルな研究で世界へ——。 誰かが通った道ではなく 新しい道を自ら切り開きたい。

東京大学大学院 工学系研究科 教授

藤田 誠 さん

分子構造解析の「100年問題」を解決

——先生が開発された結晶スポンジ法とはどのようなものなのでしょう。

藤田 創薬や分子生物学といった分野でまず必要となるのは、分子の構造を正確に把握することです。これまでにいくつかの分子構造解析法が開発されましたが、現時点で最も精度が高いのが「X線結晶構造解析」と呼ばれるものです。私が開発した結晶スポンジ法は、このX線結晶構造解析を飛躍的に簡便化・効率化できることで評価をいただいています。

——具体的にはどのような手法で簡便化や効率化が可能になったのですか。

藤田 X線を使った結晶構造解析には大きな問題点があり、分析用に決まった配列の結晶をつくる必要があります。実はこの結晶をつくるのが至難の業で、X線の原理が確立した1910年代から現代まで、「100年問題」などともいわれてきました。私が開発した結晶スポンジ法では、試料から結晶をつくるのではなく、あらかじめ結晶化した極小のスポンジのような容器の空間に試料を流し込むことで、測定したい分子構造を高い精度で確定できるようになりました。従来の方法よりも少ない試料で済み、解析期間も大幅に縮小できることも、結晶スポンジ法の大きな特長となっています。

画期的なイノベーションの原点は千葉大学時代に取り組んだ基礎研究

——結晶スポンジ法は、どのように生まれたのでしょうか。

藤田 結晶スポンジ法の発想の原点は、千葉大学工学部合成化学科で助手を務めていたときに着手した「金属配位による自己集合」という研究です。これは、一定の条件下で分子同士が百パーセントの収率で自動的に正方形に組織化するというもの。この手法をもとに様々な形の分子を合成する研究をすすめるうち、分子構造解析のための「容器」となる結晶が形成できることが分かり、結晶スポンジ法の開発にたどり着きました。私は以前から、基礎研究の大切さを主張していますが、千葉大学時代に取り組んだ基礎研究がこのようなイノベーションを生んだことは、本当に大きな意義があると感じています。

——結晶スポンジ法が社会に与えるインパクトや今後の展開について教えてください。

藤田 結晶スポンジ法の活用でX線結晶構造解析が効率化すると、さまざまな成分分析や合成が飛躍的に進みます。すでに創薬の分野では大手製薬会社との共同研究が進んでいますし、たとえば飲料研究の分野なら、ビールと変わらない発泡酒の開発に役立つ、といったことも考えられます。また、今後の展開として特に期待できるのは、ライフサイエンス分野です。皆さんは遺伝情報を指す「ゲノム」という言葉を聞いたことがあると思います。このゲノム探索では最終的な構造解析による「答え合わせ」が欠かせないのですが、従来の方法では効率が悪く、成果が出るまでの間に「渋滞」が起きてしまっていました。そこに結晶スポンジ法という「高速道路」ができたことで、大幅なスピード化が図れます。海外のバイオ関連企業とも互角に渡り合えるという判断のもと、現在は創薬を目

的としたバイオベンチャーの立ち上げを準備中です。

研究は「我が子」。だからこそ自らの手で世に出してあげたい

——先生の研究のモットーやこだわりを教えてください。

藤田 誰かが通った道ではなく、自分で道を切り開きたいというのが、私の研究に対するこだわりです。私にとって研究は「我が子」なんです。研究者のなかには次々に新しい研究に取り組みタイプの方もいますが、私は大切な「我が子」に向き合い続けたいというタイプです。千葉大学時代にひらめいた金属配位による自己集合というテーマを独自に発展させて、結晶スポンジ法という成果を得られたのも、自分の研究に真摯に向き合い続けたからだという自負がありますし、だからこそ自らベンチャーという形で世に出したいとも思っています。

——最後に、千葉大生へのメッセージをお願いします。

藤田 私は自分が研究者なので、個人的には若い人に研究の道に進んでほしいという願望があります。ど、どのような道に進むにしても、若いうちにとことん挑戦して苦しいの先にある楽しさを発見してほしいですね。いったん楽しさを味わえば、それは苦勞ではなく、結果として高みを目指すようになります。これは、舌の肥えた人が、どんな苦勞をしてもおいしいものを食べようとするのに似ているかもしれません。自分の人生をおいしく豊かにしていきたいでしょう。

ノーベル賞の前哨戦ともいわれるウルフ賞を受賞した藤田誠教授。結晶スポンジ法の最新の成果やイノベーションを生み出した経緯、研究の原点である千葉大学時代の思い出などを語っていただきました。

藤田 誠
(ふじた・まこと)
東京大学大学院工学系研究科教授。千葉大学工学部卒業。大学院工学研究科で修士課程を修了後、相模中央研究所研究員となり、東京工業大学で博士号を取得。1988年～1997年は母校の千葉大学で助手、助教授として勤務。その後名古屋大学大学院工学研究科教授などを経て、2002年より現職。「金属が誘起する自己集合原理の創出と巨大中空物質構築への展開」の業績が評価され、2018年に日本人で2人目となるウルフ賞化学部門を受賞するなど、受賞歴多数。



平成30年7月24日に、千葉大学で初となる特別栄誉教授となった藤田教授。称号授与式とともに行われた記念講演会では、来場した学生たちへ力強くエールを送った

2018年6月、WHO東南アジア地域事務所の
テクニカルオフィサーに就任し看護と助産の
強化・改善のために奔走する神田美希子さん。
健康と福祉を世界中に届けたいという大きな夢を持つ
神田さんに仕事のやりがいや千葉大学時代の
思い出について話を伺いました。

妊産婦や乳幼児の死亡率低減のために 各国の保健担当省庁をサポート

— WHOでどのような仕事をされているか教えてください。

神田 WHOは、加盟194か国を6つの地域に分け、各国と協力しながら保健や衛生状況の改善、提案、指導などを行う国連機関です。私が勤める東南アジア地域事務所では11か国を担当していますが、この地域は、妊産婦や乳幼児の死亡率が高いことが大きな課題となっています。これを改善するため、エビデンスやデータをもとにさまざまな改善の提案やサポートを専門的に行うのが、テクニカルオフィサーという仕事です。

— 具体的にはどのような方法で改善を図っているのでしょうか。

神田 東南アジア地域では、助産師という仕事は確立していない国もありますし、せっかく助産師がいても国際的な能力基準を満たしていないケースも多く見られます。妊産婦や乳幼児の死亡率が高いのはこれが大きな原因のひとつになっているので、WHOの国オフィスを通して各国の保健行政を担当する省庁と連携し、国際基準に合致した看護師や助産師の育成と適切な配置をサポートしています。国の方針にかかわることなので、教育関係省庁や財務関係省庁との連携も重要です。

保健政策をつくる人の意識を変えることで 「すべての人に健康と福祉を」の実現を

— 国際的な場で看護や助産に携わろうと思ったきっかけは何ですか。

神田 千葉大学を卒業し、千葉大病院で臨床看護を経験したあと、2007年から日本看護協会看護資格認定制度の運営を担当していたときに、アフリカの

政府高官を対象とした研修でインストラクターを務めたことがあります。私は、臨床の看護師が資格認定を通して自己研鑽を積むことは当然のことだと思っていたのですが、参加していたアフリカの政府高官は「看護師資格を持っているのだから、さらに勉強する必要はない」という意見で、とてもショックを受けたのを覚えています。保健政策をつくり、実行する立場の彼らに看護の重要性をもっと認識してもらうにはどうすればいいのだろうと考えたのが、国際保健に興味を持ったきっかけです。日本看護協会に在籍しながら東京大学大学院に進んだのは、国際保健に携わるために必要な知識と能力を身につけたいとの思いからでした。

— 仕事をしていて感じるやりがいはどういった点でしょうか。

神田 私は、国連が掲げるSDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標のなかの目標3「すべての人に健康と福祉を」に共感しています。ある国に必要な医療サービスを受けられない人がいるとして、どうすればそういう人が健康的な生活を送れるようになるのかを、その国の保健行政担当者と一緒に考える仕事ができる…。これはその国の未来へとつながること、私にとって大きなやりがいです。また、育成をサポートした看護師や助産師が、質の高いサービスを提供するだけでなく、それぞれの国の保健医療政策の立案や実施という国の仕組みづくりに参画する土壌ができれば、保健医療職の最大集団である看護師、助産師の教育の質が向上し、また有効に活用され、ひいては「すべての人に健康と福祉を」という目標に少しでも近づけるのではないかと考えています。

さまざまな体験を通して 自分の可能性を広げてほしい

— 千葉大学時代の思い出を教えてください。

各国の看護と助産をサポートし
「すべての人に健康と福祉を」という
大きな目標を実現したい

WHO(世界保健機関)東南アジア地域事務所
看護・助産担当テクニカルオフィサー

神田 美希子



神田 美希子 (かんだ・みきこ)

千葉大学看護学部卒業。3年間の千葉大学附属病院勤務後、公益社団法人日本看護協会看護資格認定制度の運営に携わる傍ら、東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教室で修士・博士課程を修了。現在はWHO(世界保健機関)東南アジア地域事務所の看護と助産担当テクニカルオフィサーとしてインドに駐在。



(上) 東南アジアの保健医療人材に関するワークショップの企画メンバー (下) ミャンマーからのミーティング出席者と意見交換

医学部の起源となった 千葉町共立病院

もっと
知りたい
千葉大学



千葉市内にある2つの記念碑

1874年、千葉県令の呼びかけに
た千葉町の有志と三井組が資金を出し、共
立病院ができました(院内公園付近)。76年
には移転し、医学教場を併設した公立千葉
病院になりました(きはら一付近)。医学
部創立85周年とし
て1960年にそ
れぞれ記念碑が建
てられました。千
葉町民からの寄金
で作られた共立病
院を、医学部がそ
の起源としている
ことは、意義深い
ものがあります。
(国際教養学部
見城悌治)

日本留学アワーズ 「留学生に勧めたい大学」を 2年連続で受賞しました

AWARD



表彰式の様子

全国の日本語学校の教職員が留学生に勧め
たい進学先を選出する「日本留学アワー
ズ」の「東日本地区国立公立大学部門」に入賞し
ました。入賞は2015年、2017年に続
き3回目、「教育内容」「知名度」「学校設備」
が高く評価されたものです。本学は年間三千
人の留学生
受け入れを
目標に掲げ、グロ
バルに活動
する大学と
なるため、
今後さまざま
な取り組みを展
開していきま
す。

ニュートリノ放射源天体 世界初の同定に成功

INNO
VATION



地球上に降り注ぐ高エネルギーニュートリノのイメージ ©IceCube Collaboration

地球から約40億光年離れた、巨大ブラック
ホールを持つブレイザー天体が、高エネル
ギーニュートリノの放射源天体であること
が国際共同研究で明らかになりました。こ
れは高エネルギーニュートリノの放射源
をつきとめた世界
で初の事例です。
ニュートリノ観測
実験IceCubeの正
式メンバーである
千葉大学グループ
は、宇宙ニュート
リノ事象をリアル
タイムに同定する
手法の開発で今回
の発見に大きく貢
献しました。

文部科学省にて 学生による企画展示

INFOR
MATION



期間中にはセミナーも行われ、学生たちも登壇しました

平成30年8月20日から9月25日にかけて、
文部科学省新庁舎エントランスにて環境
ISO学生委員会による企画展示が行われ
ました。千葉大学が15年にわたり学生主体の
環境マネジメントシステムを実現させてき
た秘訣でもある「千葉大学方式」の紹介パネ
ルや、学生委
員会のさまざ
まな活動につ
いての紹介お
よび学生が企
業と協同して
制作したブツ
クーパーや間
伐材ノート、
シャープペン
シル等を展示
しました。

1本、1本の線に想いをのせて、安心・安全の建物をつくる 新日本建設株式会社 富吉 優希さん

OBOG
MESSAGE



富吉 優希 (とみよし ゆうき)
2017年度入社、建設営業本部企画設計部所属。今年度、建設営業本部設計第二部より異動。千葉大学工学部建築学科2013年入学、2017年卒業。



千葉駅西口地区市街地再開発事業(B工区)

**「設計」のあらゆる
機会を得て**
私は現在、企画設計部に所属
しています。主に営業から依頼を受け
た仕入れ前の土地に対して一から
建物の設計をしていく仕事です。施
主様からの要望に加え、守らなけ
ればいけない法規は膨大でそれを
同時に考えながら作っていくこと
に最初はかなり苦労しました。

**コミュニケーション能力が
仕事に活きる**
工学部建築学科に入学し、設計課
題に追われる日々の中で最も力を
入れていたのがサークル活動です。
私は硬式テニスサークルに所属し、
積極的に参加していました。設計は
パソコンに向かっているイメージが
強いかもしれませんが、他部署や外
部との連携が欠かせないので学生
時代にコミュニケーション能力を身
につけたことが今の仕事にか
なり活かされています。

より大きなことに挑戦中
当社は現在、今まではなかった
大型物件にも次々挑戦しています。
これから業務を通して知識・経験を
身につけていき、会社を代表するよ
うな大型物件を担当できるようにな
りたいと思います。
大学では周りの友人に比べると建
築を学んだ時間は少なかつたと思
います。それでも、設計を仕事にしたい
気持ちで入社しました。挽回の余地
はいくらでもあるので自ら可能性を
狭めてしまおうではなく、挑戦した
いことを見つけてほしいです。

新日本建設株式会社
<http://www.shinnihon-c.co.jp>



設立:1964年10月16日 社員数:465名 千葉大学OB:3名
新日本建設株式会社は総合建設事業(ゼネコン)と不動産開発事業(ディベロッパー)を併せ持
つ独自のビジネスモデルを構築しています。不動産開発事業では用地の取得・建築の企画・設計
・施工・販売・アフター管理までの全プロセスを担当する「自社製販一貫体制」が特徴であり、
社員が社員に想いを引き継ぎながら建物を作り上げていきます。
現在は千葉駅周辺の再開発事業にも取り組むなど、千葉にもっと人が集まり、便利で安心で
住み良い都市づくりを担っています。

学術リソースをWEBで公開

INFOR
MATION



医学書や図書のような歴史的資料のほか、カビの顕微鏡写真のような自然科学分野の資料も公開
<https://iiif.LL.chiba-u.jp/>

アカデミック・リンク・センターは、
オープンな情報資源として誰もが自由に
活用できる千葉大学学術リソースコレク
ション(Chiba University Academic
Resource Collections)をWEB上に公開
しました。デジタルリソースを全面的に活
用して教育の質的転換をめざす「デジタ
ル・スカリシップ」の実現に向けての取り組
みです。

西千葉キャンパス発の 「はちみつ」販売開始

INFOR
MATION



平成30年9月21日よりそごう千葉店で取り扱いを開始

都市養蜂研究のために西千葉キャン
ス内に設置した養蜂箱から採取された蜂
蜜が、このたび商品化されました。この蜂
蜜は、研究の一環としてミツバチが巣に持
ち帰る花粉のDNA分析がされており、
商品パッケージ
には採取された
月ごとの蜜源と
なった植物が明
示されているこ
とが特徴です。
西千葉キャン
パス内周辺の街
路樹・公園など
千葉市内の草花
から生まれた、
「千産千消」にふ
さわしい蜂蜜と
なりました。

大学生観光まちづくり コンテストで最優秀賞

AWARD



2名はそれぞれの専門分野を活かし、観光プランとプロダクトを提案

工学部建築学科4年の大島正暉さんとテ
サイン学科3年の今村隆太さんが、「大学生
観光まちづくりコンテスト2018 茨城ス
テージ」にて、最優秀賞にあたる観光庁長官
賞と、観客の投票で決まるオーディエンス賞
を受賞しました。本コンテストは、「魅力度最
下位脱出に向け
た「観光まちづ
くり」をテーマ
に地域活性化の
計画を提案する
もので、「水戸で
楽しむ大人のた
めの修学旅行」
と題した発表で
賞に輝きまし
た。

学生・若手研究者のチャレンジを支え、未来を育てる 千葉大学 SEEDS 基金

千葉大学SEEDS基金
は、ご寄附をもとに、学生
の生活環境の整備、教育
研究環境の整備、学生へ
の奨学金の支援、国際交
流事業の推進などを行っ
ています。
次世代を担う若者がより
良いキャンパスライフを
送れるよう、ご支援・ご協
力をお願いいたします。



ホームページから寄附の申込みができます
詳しくは <http://kikin.chiba-u.ac.jp>



02



04



06



08

I N D E X

02 特集 若手研究者の活動にせまる — 特色ある研究活動の成果から —

千葉大学で行われている多種多様な研究。
若手の研究者に注目してその一端を紹介します

06 特集 千葉大学 OBOGインタビュー 化学の分野で数々の成果をあげ、今も挑戦を続けるウルフ賞受賞OBと、 WHOのテクニカルオフィサーとして、東南アジアで活躍するOGを紹介

10 TOPICS / もっと知りたい千葉大学

ちばだいブレス

編集・発行 / 千葉大学 企画総務部渉外企画課広報室
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号
TEL : 043-251-1111(代表) E-mail : koho-hp@office.chiba-u.jp
ご意見・ご感想をお寄せください

www.chiba-u.ac.jp

[表紙] 新津 萌絵 (にいつ・もえ) さん

千葉大学教育学部
生涯教育課程 4年



国際教育への興味から教育学部に進学したという新津さん。2016年から1年間、フィリピンやタンザニア、アゼルバイジャンなどの国を訪れて、写真や芸術のワークキャンプへ参加し、2017年には国際ボランティアNGOのNICEが主催する国際ボランティア大賞を受賞しました。大賞を決める大会では世界的に活躍する審査員の方々と直接お話をすることもでき、貴重な経験になったそうです。学内ではイングリッシュ・ハウスでSA(スチューデント・アシスタント)として英会話練習のサポートを行ってきました。「イングリッシュ・ハウスの楽しいところはたくさんの人と出会えることです。ぜひいつでも遊びにきてください!」
(撮影:西千葉キャンパス イングリッシュ・ハウス)